



4_シキミを剪定・伐採する岩橋洗平隊員／5_長年井内に住む角谷茂昭さんは現在もシキミや米の生産に勤しむ／6_井内で生産が盛んなシキミ

さんによりよいものに触れてほしいと思う気持ちは地域おこし協力隊を終えた今でも変わりません」と話す。現在構想担当の田中直樹隊員は「これまでの先輩たちが残したものを引き継ぎながらたくさんの人と繋がれた3年間だった」と話す。3年間の活動の中で自身の繋がりを活かし、県外からさまざまなアーティストを誘致。芸術家が一定期間その土地に滞在しながら創作に取り組むアーティストインレジデンスなど市内で新たな取り組みを実現させた。

自然豊かな井内の棚田は夏前水を張る時期には幻想的な景観が広がり、秋の収穫期には黄金色に光る。井内区長などを経験し、長年井内地区に住む角谷茂昭さんは「田んぼに水を張る時期になると、カメラを持った人が最近よく井内に来ています。井内は米やシキミなどの生産が盛んですが、後継者不足の問題を抱えています。里に降りてくる猪もここ数年増えてきている気がします。これまでは誰かが米を作れなくなるとみんなが手を貸してなんとかなっていたけれど5年、10年先は分かりませんが、最近市外の人たちが助けてくれることが多くなりました。井内に移住してくれる人が増えれば嬉しいですね」と話す。約3年前、井内地区にきた岩橋洗平隊員は井内に住む人たちと関わりながら、シキミの生産や地元イベントのサポートなど「人との繋がりを大切に地域おこし協力隊の活動に取り組んだ。」

田んぼとシキミ 山暮らしを守る

ともに任期を全うした2人がクロストークで東温市での暮らしを振り返る。



特集 とうおんで暮らす

約3年前、アート・ヴィレッジとうおん構想担当、中山間地域井内地区担当に就任した地域おこし協力隊の2人。今回の特集は井内地区やアート・ヴィレッジとうおん構想に長く携わる人から話を聞きながら、協力隊の2人が東温市の活動や暮らしを振り返る。

まちに新しい芸術を 歴代の先輩から学ぶ

「アート・ヴィレッジとうおん構想」はアーティストの受け入れ促進と、芸術に気軽に触れられる環境づくりを進め全国に誇れるまちを目指している。構想担当にあたる地域おこし協力隊は、「東温アートヴィレッジセンター」を拠点に、自身の持ち味を活かしながら、アート・ヴィレッジとうおん構想の推進に尽力する。

地域おこし協力隊で活動した後、東温音響株式会社を起業し、現在も東温アートヴィレッジセンターに関わりの深い高橋克司さんは「東温アートヴィレッジセンターの立ち上げから関わりました。舞台照明の配置や音楽ブースの仕様はできるだけ本格的なものを取り入れることにこだわりました。皆



1_アート・ヴィレッジとうおん構想の核となる坊っちゃん劇場／2_元地域おこし協力隊の高橋克司さん／3_公演のサポートをする田中直樹隊員



2人のクロストーク

東温市での活動

田中：活動しようと思った1年目は施設が閉館して何をしようか考えたとき、みんなの思いと、これまでやってきたこととこれからどうしたらよいかインタビューしました。他には東温アートヴィレッジセンターの美術品の整理、2年目の企画を考えていきました。2年目は京都の若手のアーティストを呼んだり、アーティストインレジデンスを市内で初めて実施しました。

岩橋：1年目は井内地区「人空田」の宿泊施設運営の協力をしました。農作業で野菜を作ったり発信活動をして、SNSのnoteは毎日投稿していました。2年目はシキミを学びつつ、シキミの生産に協力して生産する人が増えたらいいなと、刈り取り体験希望者をSNSで募集したら、思ったよりも応募があったので嬉しかったですね。

地域おこし協力隊の繋がりが

田中：同じ西谷地区に住んでいたんです。

地域おこし協力隊が

東温市で過ごした3年間

お世話になりました。自分が持っていた繋がりを地域おこし協力隊の活動で活かすことができたのでよかったですと思います。

岩橋：これまでの地域おこし協力隊の先輩たちにはお世話になりました。

田中：本当にそのとおりで、かなり頼りにしてました。

今年度の活動は

岩橋：今年度は退任後のことを中心に活動していました。民宿をやりたいと計画して、シキミでお世話になった人から場所を紹介してもらったりしました。

田中：フェスティバルの企画のサポートやSNSの更新をしました。SNSを通じて県外の人から反応があり、東温市でやりたい思いを実現できるように試行錯誤した1年でした。市民の人たちも巻き込んでできたのが良かったです。今年度は北九州の劇団を招いたり、市内でやりたいと思う人のサポートとまとめ作業をしています。SNSは次の協力隊の人たちに引き継いでもらいたいです。

東温市の印象

田中：東温市は人が優しい。

岩橋：田中くんが近くに住んでいたのでご飯に行くことができました。そこから田中くんがよくうちに来てご飯を食べるようになりました。

田中：九州旅行にもいったなあ。

岩橋：そういえば1年目、バスの旅をしたね。

田中：あれは楽しかったなあ。他の自治体の人から声を掛けられたりしたね。

岩橋：真似していいですかと聞かれたのは嬉しかった。

東温市の暮らしは

岩橋：初めに来たときは星空が綺麗でびっくりしました。水も綺麗。用水路に流れてる水も綺麗だった。隣の大家

さんが猪を解体していたのが驚きでした。でも車で5分10分で買い物に行けるので生活に困らなかつたです。冬は水道管が凍って困ったこともありました。

田中：山が近く、洗濯機にサワガニがいて驚きました。

人との繋がりが

岩橋：お世話になったのは大家さん。シキミの作業、野菜作り、家のメンテナンスのことなど何でも教えてくれました。

田中：この人にお世話になったというよりもすでに地域で活躍していたアーティストの皆さんやスタッフの人たちに分からないことを聞いたりして、広くいろいろな人に



地域おこし協力隊
アート・ヴィレッジとうおん構想担当
田中 直樹 隊員

地域おこし協力隊
中山間地域 井内地区担当
岩橋 洸平 隊員

岩橋：人が温かいね。都会は会社と家の行き来だけで仕事は仕事という感じがする。

田中：ここは、仕事がプライベートにも繋がってくる。

岩橋：そう、面倒見てくれる人がいたり、接してくれたり誘ってくれる人がいていいなと思いました。

田中：人の繋がりが濃厚になりました。いろんな人と喋る機会が増えました。

岩橋：自分の知らない人でも相手が知ってたりとか、そういう経験は今までなかった。

田中：受け入れてもらいやすい雰囲気なのは、歴代協力隊をしていた皆さんの活動があつてこそだと思います。

岩橋：「なんで東温市に来たん?」「どうしてこんなところ?」と市民の人は言うけれど、よく来てくれたね

いいところよねって言う人が増えてきたらいいなと思う。

田中：確かに。

2人のこれから

田中：地域おこし協力隊での活動を活かしながら新たな劇場で働く予定です。迷惑をかけたこともありましたが、いろいろな人が支えてくれたことに感謝しています。

岩橋：市内で民宿をします。いろいろな草鞋を履きつつ活動していきたいと思っています。地域おこし協力隊の任期中はお世話になりました。今後も市内で活動するので、これからも手伝えることがあれば声を掛けてもらえたらと思います。